

西垣文庫 特
文庫 10
7343
4



郡も縣下上野正村根郡政村坊田熊吉八郎治すの九月
村の川原と云々受字列中杉録を研て



居るうち巨への松のあらくと動さ
九の星の地震と云々へ木彼の大木
くらじの下抱ふひありー 巨松の
根元すまといひ舟尻尾の流の
そこ深く茂る梢の大枝ふスット
こけけは只と春と舌を吐出
熊吉同分けて近よれ八枝を忘れ
拵る海を巨地の脊ふ打込で
声を張りふ人を呼ばふ
して近よるふ近よ
あがまひてあけより



見れ八徳吉八郎のこふ
氣せつる体中ひ抱あて
次をを多警察取
訴るれ警部入巡査
五人を彼川原子行れふまづ血泣の

跡のこゆ
まんそんかひ
近村の老
とまかしくを精さ
れと今行のれ

信州さくさく志多郡天塚村の祭礼の時村の若者の集り似るが奇の強さを示し
近村の評判をうけんと

麻見高記

を思ひつぎしや

家もたろう

西にたろう

へいお

の兄ハハの脊か

まのまは後原おあま

いとそれぐお後刺さ

お政原徳の翁より先子押立休貝口子鹿を

かこ先するまらうり田の差相風かひく人し威氣揚くと



延々し村中を押垣し社前子のう引退くとする所へ
おと笑より巡査教令
延付て幕徒お

おのを
おのを
おのを

おのを

おのを

おのを

おのを

おのを

おのを

おのを

おのを



福原縣士族新盛史の故に信長公の折川を立出東京来り
 命しめ夫の中にお松殿と云ふ二人の子返りねと土を
 本妻ありきお松殿といふは六年おなる妻を
 元は六折後の史に記す那吉坊村の養清水と七の娘を



お松殿
 七の娘
 信長公
 折川

お松殿
 七の娘
 信長公
 折川



お松殿
 七の娘
 信長公
 折川

お松殿の故に信長公の折川を立出東京来り
 命しめ夫の中にお松殿と云ふ二人の子返りねと土を
 本妻ありきお松殿といふは六年おなる妻を
 元は六折後の史に記す那吉坊村の養清水と七の娘を

お松殿
 七の娘
 信長公
 折川

着るはなはら
らん花集
まてそあ
今の母



中あはれそはなはら
させのいひ
まのつと
食しちり
中あはれそはなはら
させのいひ
まのつと
食しちり



中あはれそはなはら
させのいひ
まのつと
食しちり
中あはれそはなはら
させのいひ
まのつと
食しちり
中あはれそはなはら
させのいひ
まのつと
食しちり

三河五井村の人力車
引の荷及不客まぢを
走せしる変身のところ

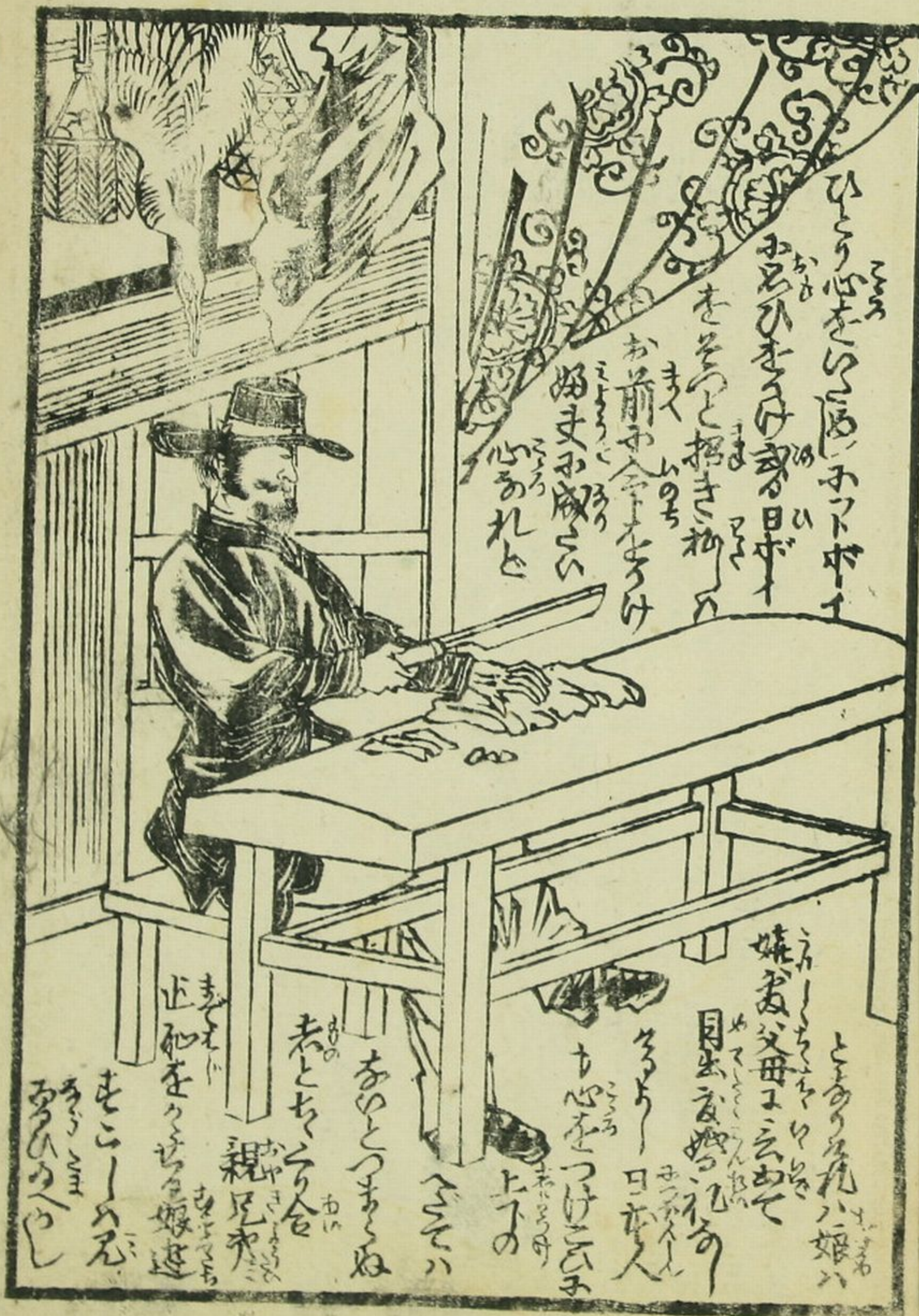
二十三日と見ゆる
人品のいやうなる
人の速辰を

きめて来た
のれい人力引の
をち巻あー来たの
吐しをまるふ
新の西園より来た
仍者あるかとかくお
六つきらひの史事



の
皇れが安んじ
乃を引くと
仍遠ひの
梳り裡不
今々笑ふ
つ死つる
のま
あそ
ゆを
もち
ま
志





ひろしはさくらにアトキ
 おまひまのひまの果
 ままのと招きおの
 お前お入をまけ
 おまお成の
 心あれと

とありはれは娘の
 妹お父母に云おて
 目もなぬれあ
 まるり 日お入
 心をつけこま
 上下の
 へそは
 ちのつちまね
 夫とちり合
 親兄弟
 正和をうま娘達
 まこしは元
 ありひやし

英おてクリンドと云る人の
 娘の年ハ六の花の表面燃料の
 年ハ五十年のつゆのゆるる
 あくもせども不足と云る
 男おりまうとて此分のゆるるハ
 父母へ對して品物もまふぬハ



お前の人々の心の上を陸で
 姉おあられも今より
 学校生徒お入修業
 をあててこころん世
 友ハ仍樹うても
 それおれを送る計
 云おボイハお船
 そろおあまこの心おあ自夜
 を見るに勉強を 上達お
 せし上お陸で四月おより
 ままよりと別れて三年
 け方入学生おあら不遠まの
 ボーハハ大子表

[Faint, mostly illegible text in a traditional East Asian script, likely Chinese or Japanese, covering the majority of the page.]

明治
八月十四日
唐

海
島
集
卷
三
第
一
卷
地
一